

ボクシングWBA女子世界フライ級王座防衛V3!!

おおさき宝大使 プロボクサー 藤岡奈穂子 選手

7月9日(日本時間10日)、アメリカ合衆国ロサンゼルスで開催された、WBA女子世界フライ級10回戦で、藤岡奈穂子選手がスレム・ウルピナ選手(メキシコ)に勝利し、3度目の王座防衛を果たしました。

藤岡選手は、地元大崎市に凱旋報告のため、8月16日に大崎市役所を訪れました。

ロサンゼルスでの試合は、以前からの目標でしたが、コロナ禍により2年間試合をすることができず「もう無理かもしれない」と考えたこともありましたが、いつか目標を達成できることを信じ、地道にトレーニングを積んできたそうです。

「ロサンゼルスで試合ができたことに感謝しており、さらに結果を残せたことで、皆さんに少しでも明るい話題を提供できてよかった」と笑顔で語ってくれました。

これからは、ボクシングの中心地といわれるラスベガスでの試合を目標に頑張りたいと決意表明されました。今後の活躍を期待します。



▲大崎市役所前で試合の結果を報告する藤岡選手

広報おおさき9月号 2021 No.186

Main Contents 目次

- 04 わたしたちの東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
- 06 オオサキプレイガイド
- 10 Discover OSAKI
- 11 OSAKI Culture
- 12 新型コロナウイルス感染症支援情報
- 13 暮らしの情報
就学時健康診断を実施します ほか
- 24 子育て支援情報
- 25 育児相談・乳幼児健診
- 26 相談コーナー
- 27 休日救急当番医 ほか
- 28 藤井直伸選手来訪

パワ崎さんの食育コラム

その5
大崎耕土の食文化と魅力的な食べ物を紹介するよ!



世界農業遺産推進課 ☎ 23-2281

大崎耕土は、昔から冷害や洪水などの災害対策をしながらたくさんの種類の米や伝統野菜、長い冬の間の保存食などたくさんの農産物を作っているよ!
これらの農産物を活かしたみそや日本酒など、県内有数の発酵食品産地として豊かな食文化がはぐくまれているんだ!
そして、発酵食品には善玉菌がたくさん含まれていて、腸内環境を整えてくれるから便秘解消や風邪な

どの感染防止の免疫力アップに繋がるし、悪玉コレステロールを除去したり、高血圧を予防する生活習慣病予防効果もあるんだよ!
身近な発酵食品の「みそ」で、地元で採れた野菜を使った「おみそ汁」など大崎耕土の発酵食品を毎日の食事に取り入れて、みんなで健康な体を作ろう!
ウェブサイトで大崎耕土の「食」の魅力がたくさん紹介しているのでぜひチェックしてみてくださいね♪

vol.17

オオサキワンダームミュージアム

人と大自然の青空博物館

大崎地域世界農業遺産推進協議会では、大崎耕土の伝統を後世に繋ぐための人材育成の一環として、教育機関と連携した取り組みを行っています。

世界農業遺産「大崎耕土」に関する出前授業をはじめ、米のブランド認証制度に取り組んでいる加美農業高校では、必須要件である田んぼの生きものモニタリングの研修会を行っています。また、南郷高校では「大崎耕土支援プロジェクト活動」として、鳴子温泉地域南原地区での除草や除雪作業などの取り組みを行っています。

人材育成の取り組みとフィールドミュージアム構想、ブランド認証制度が連動することで、地域資源の理解と交流・関係人口拡大による大崎耕土の持続的発展を図りながら、次世代を担う人材の育成とともに、ブランド価値の向上を目指していきます。

これらの取り組みは、大崎地域世界農業遺産推進協議会のフェイスブックで紹介しています。QRコードからご覧ください。

▶大崎地域世界農業遺産推進協議会フェイスブック



次世代人材の育成を推進しています

世界農業遺産推進課自然共生推進担当 ☎23-2281



▲田んぼの生きものモニタリング研修会(加美農業高校)



▲鳴子温泉地域南原地区での除草作業(南郷高校)

大崎耕土ウェブサイト
OSAKI KOUDO Website



市長コラム

天地人

コロナ禍と農泊台頭

9月5日に、記念すべき第一回全国農泊ネットワーク宮城大崎大会が開催されます。

当初はオプショナルツアーも含めて三日間の開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて一日に集約し、オンライン方式での開催になりました。

二年がかりで準備を進めてまいりましたので、開催方法の変更は残念ですが、まずは歴史に残る第一回大会を大崎の地で開催できる意義は大きいと捉えています。

農泊とは、「農山漁村滞在型旅行」の略で、農山漁村に存在する豊かな地域資源を活用した「宿泊・食事・体験」などを提供するところです。

ヨーロッパを中心に普及したグリーン・ツーリズムの日本版として、近年、国も積極的に普及・支援を進めている新たな地方創生政策であります。

さらに、新型コロナウイルスの流行という災いが、都会の三密回避、テレワーク、ワーケーション志向により、田園環境の再発見、農泊の魅力アップへ期待が高まってまいりました。
そのような時代潮流のもと、第一回大会が大崎での開催となります。
大崎地方は、17年前に第二回グリーン・ツーリズム全国大会が開催されており、すし、ラムサール条約登録湿地・渡り鳥に選ばれたまちであり、世界農業遺産に認定された大崎耕土を有しており、まさに農泊の魅力満載の地であります。

大崎の地から、農泊の未来を切り拓いてまいります。祈りながら、

祈りながら、

大崎市長 伊藤康志

